

日本人学者からの応答の基本的スタンス 渡辺利夫 (拓殖大学総長)

日時：2015年8月6日 (木)

場所：外国人記者クラブ

呼びかけ人の一人を務めております渡辺利夫です。今年5月、米学者は187名の連名をもって、いわゆる従軍慰安婦に関する声明文を発表しました。連名者の中にyはロナルド・ドーア教授やエズラ・ボーゲル教授といった、日本の知識人に深い知的影響を与えた碩学の名前もあって驚かされています。

さて、この声明文を読みまして、私は見過ごすことのできない問題が含まれていると強く感じました。それゆえ日米の相互理解に資するという観点から、主として2つの論点に絞って問題を提起してみたいと考えます。

第1に、米学者の声明文は、日本の慰安婦制度は、”その規模の大きさ、軍による組織的な管理、植民地・占領地からの女性調達・搾取”などの点からみて、「20世紀の戦時性暴力の中でも特筆すべきものだ」と主張しています。

1 国の歴史をこのように断定して非難の対象とするには、よほど慎重な事実の検証が必要です。この声明文は、そのような検証努力に立って出されたものなののでしょうか。日本のこの問題に関する真摯な研究者の成果は、米学者によるそのような断定は検証に耐えられるものではないことを証しています。

声明文では、日本人研究者は「特定の用語に焦点を当てた狭い法律的議論」や「被害者の証言に反論するためのきわめて限定された資料」にこだわり過ぎている。そういうこだわりをやめて「過去の過ちについて可能な限り全体的、かつできる限り偏見なき清算をこの時代の成果としてともに残そうではないか」と呼びかけています。

対照的に、私どもは、真実は事実の中にのみ存在する、という価値観に立ちます。そして、歴史的な資料や証言をあたうる限り集め、それぞれは限定的なものであっても、これらを精細に検証し、検証された事実を積み上げることによってしか真実を明らかにすることはできないと

いう立場、つまり「歴史実証主義」の立場に立ちます。

慰安婦問題に関する日本人研究者による緻密な検証努力によって、慰安婦問題の実像はすでに明らかになっております。そして現在では、この研究成果は多くの日本人の理解を得るにいたっています。多くの日本人の理解とは、後で西岡力さんが説明しますが、「日本軍が韓国人女性を性奴隷として20万人動員し、戦後その多くを虐殺した」という主張は、まったく虚偽だというものです。

韓国人女性強制連行説を長きにわたって報道してきた日本のジャーナリズムの代表が、朝日新聞です。この朝日新聞でさえも、昨年8月の検証記事で、強行連行説は誤報であったとして関連する記事を取り消しました。「慰安婦問題が20世紀の戦時性暴力の中でも特筆すべきもの」という米学者の主張は、検証研究の成果を無視したきわめて不適切なものであります。

残念ながら、欧米にはいまだ「従軍慰安婦強制連行説」があたかも真実であるかのように広く流布しています。青少年に多大の影響力をもつ米国の歴史教科書に、20万人が強制連行され、彼女らは「天皇からの贈り物」として兵士に供され、戦争が終わった後は証拠隠滅のために虐殺された、という記述が平然と書かれています。まったく根拠のない、かつ非礼この上ない記述です。

米研究者も研究者である以上、そして多くの人々に影響力をもつ知識人である以上、日本の学究の実証研究の成果に、まずは少しでも多くの関心をお持ち下さり、教科書記述に表れているような誤解を解いて下さることを念じています。

第2ですが、声明文はさらにこう主張しています。”戦後の日本の自由と民主主義は祝福に値するものだ。しかし、真の祝福を妨げているものがあって、これは日本の「歴史解釈の問題」だ” というのです。率直に言って、私はこの主張には、国家や民族による「歴史解釈」の相違を許さない傲慢さを感じます。

今日はたまたま8月6日です。70年前の今日、広島に原爆が投下され14万人の民間非戦闘員が殺戮されました。同月9日には長崎に投下

された原子爆弾により7万4000人の無辜の市民が犠牲になりました。これに先だつ3月10日の東京大空襲では10万以上の死人が焼死させられました。これらはまぎれもない検証ずみの事実です。しかし、この事実に対する、日米両国民の歴史解釈は異なります。事実を検証した上での歴史解釈の相違には、私どもは寛容であるべきだと考えます。検証されてもいない歴史的事象について、自分の解釈に従えというのなら、国家関係は成り立ちません。

1996年のクマラスワミ報告として知られる国連人権委員会報告、2007年の米国下院外交委員会での慰安婦決議なども、検証されていない事実をもとにした特定の「歴史解釈」の押し付け以外の何ものでもない、私どもは考えます。

私どもは、今回、真実は事実の中にのみ宿ると考えるまっとうな日本の研究者を糾合して、米学者への反論を試みているのでありますが、その意図するところを是非、ご理解願いたいのであります。

(以上)